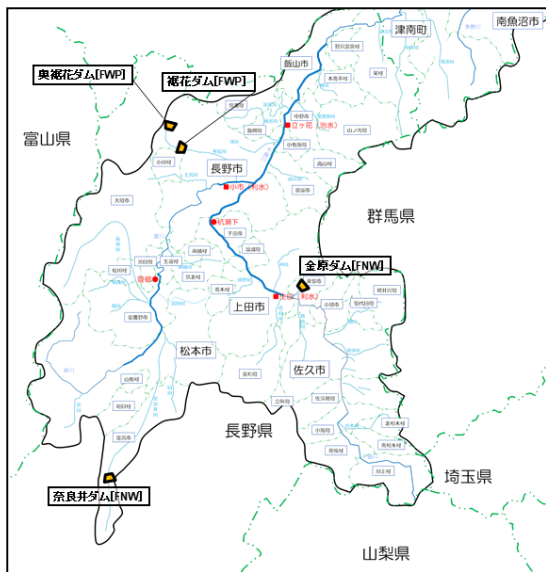


令和2年7月豪雨 ダム事前放流等の実施状況

○梅雨前線の影響により千曲川流域で大雨が予想されたため、信濃川水系上流部の4ダムにおいて令和2年5月に締結した治水協定に基づき、事前放流等の操作を行い、約110万 m^3 の「治水のための容量」を確保し、約90万 m^3 を貯留した。



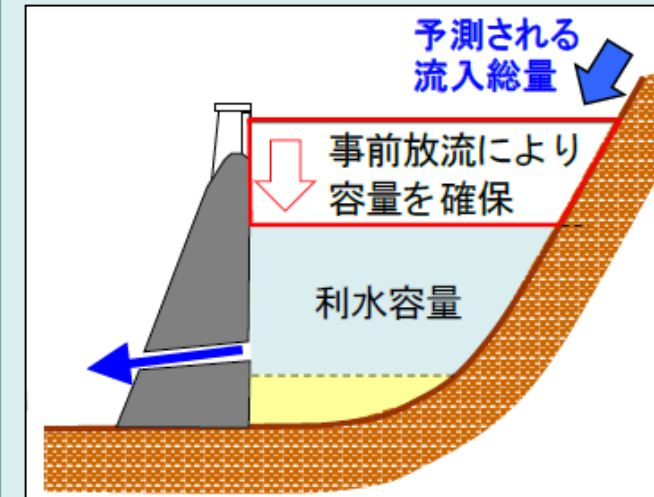
事前放流を実施したダムの位置

事前放流の実施状況

- 裾花ダム(管理者:長野県)
実施期間:7月6日2:00~7月7日1:00
- 奥裾花ダム(管理者:長野県)
実施期間:①7月6日2:00~7月7日1:00
②7月7日9:30~7月7日13:30
- 金原ダム(管理者:長野県)
実施期間:7月6日8:00~7月6日13:00
- 奈良井ダム(管理者:長野県)
実施期間:7月4日20:00~7月6日19:15

事前放流の取り組み

河川管理者である国土交通省と利水ダム管理者等との間においてダムの存在する全ての1級水系(99水系(うち、北陸11水系))を対象に事前放流の具体的な開始基準や水位低下量を定めた治水協定について協議を行い、令和2年5月までに治水協定を締結し、令和2年の出水期から新たな運用を開始。



ダム事前放流のイメージ

※常用洪水吐と利水放流管を用いて事前放流を実施



奥裾花ダム

※利水放流管を用いて事前放流を実施



奈良井ダム

※上記の他、庄川水系では大雨が予想された時点で10ダムで約1億1千万 m^3 の容量が確保されており、約8千万 m^3 を貯留した。